

二三回生 佐怒賀 弘子
(片山)

月夜なり母との共棲みとせみ三年過ぐ足湯のやさしさ影も並びて

つなぎゆくいのちをとむす母くじゅうなな九十七歳今日は欲しというひとりの時間ときと

両側のてすりもて上る自室へと母の足音小さき淵みす

自死三万この世にじつと生きるわれ妖怪へにくらし為憎愛でつはべらせ

美豆みずら良結う埴輪もなせる裏の顔ふふつとわれの独り笑いす

シエルシエルとくすぶる音たつシエレッダーにわれの身めぐり巻きとられゆく

満月のサンゴの産卵みどりごひたすらにわれもひとりみどりごの嬰児得たり

前を行くおのこがふいに逆立ちし逆さにみらるるわれつんのめる

誠に残念ですがお母上鈴子様は平成二十一年五月二十六日九十八歳の天寿を全うされました。
当日の朝もお元気でしたが心不全でお昼前に急逝されました。六十七年間位合掌懐れた千里山と
離れても弘子さんと過ごされた三年半はお幸せであつたと存じます。